

東証・名証一部

証券コード：6134

2022年3月期 第3四半期 株式会社 **FUJI** 決算説明資料

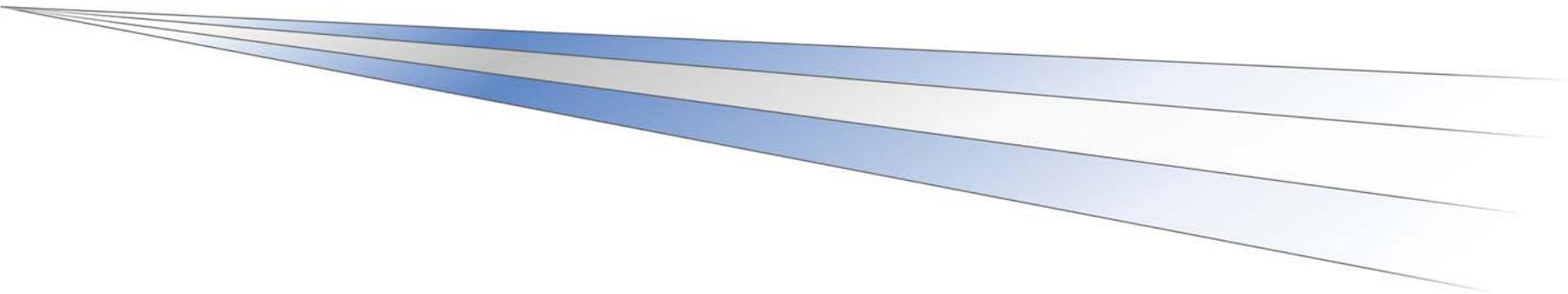
2022年2月



FUJI CORPORATION

目次

- ◆ 1. 第3四半期決算の概要
- ◆ 2. 2022年3月期 業績予想
- ◆ 3. トピックス



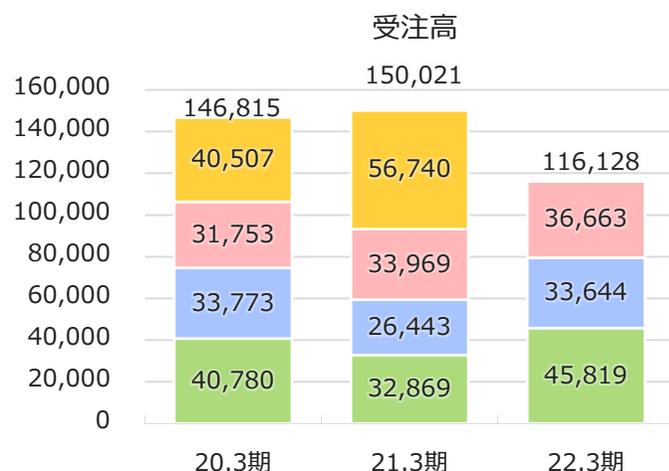
1. 第3四半期決算の概要

2022年3月期 第3四半期 業績

- ◎受注・売上・各利益、いずれも過去最高を更新
- ◎依然として部材調達リスクはあるものの、生産は徐々に回復

(百万円)

	21.3期 Q3 累計実績	22.3期 Q3 累計実績	対前年同期	
			増減額	増減率
受注高	93,281	116,128	+22,846	+24.4%
売上高	99,971	109,355	+9,383	+9.4%
営業利益	15,324	21,307	+5,982	+39.0%
経常利益	16,198	22,240	+6,041	+37.3%
当期純利益	12,808	16,202	+3,394	+26.5%

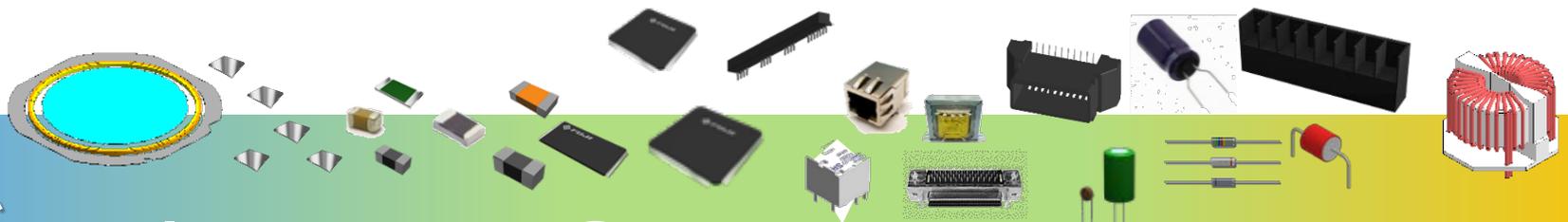


営業利益増減分析

◎ 主に売価の改善により、対前年同期比5,982百万円の営業利益増



ロボットソリューション事業



はんだ
印刷

Die

SMD

挿入部品



GPX-C



FASFORD
TECHNOLOGY
DBシリーズ



NXTR



NXT
Fuji Scalable Placement Platform



AIMEX



sFAB-SH

多関節ロボット



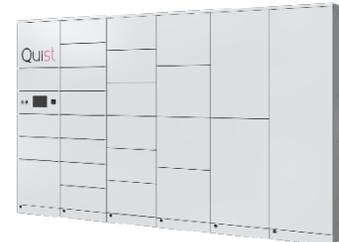
SmartWing

プラズマ処理装置



Tough Plasma

宅配ロッカーシステム



Quist

介護ロボット



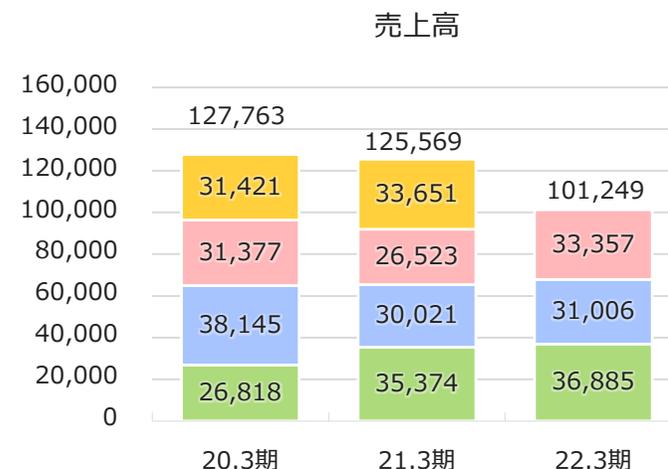
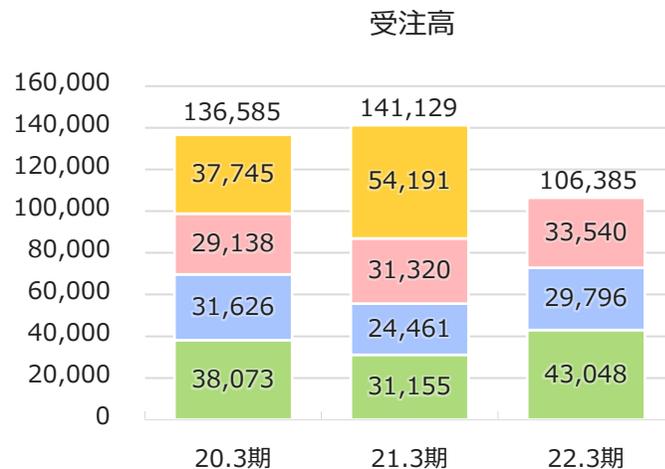
Huq

ロボットソリューション事業 業績

- ◎通信関連、サーバー等の底堅い設備投資に加え、欧米市場は車載関連が牽引
- ◎電子部品生産用の設備投資も引き続き順調に推移

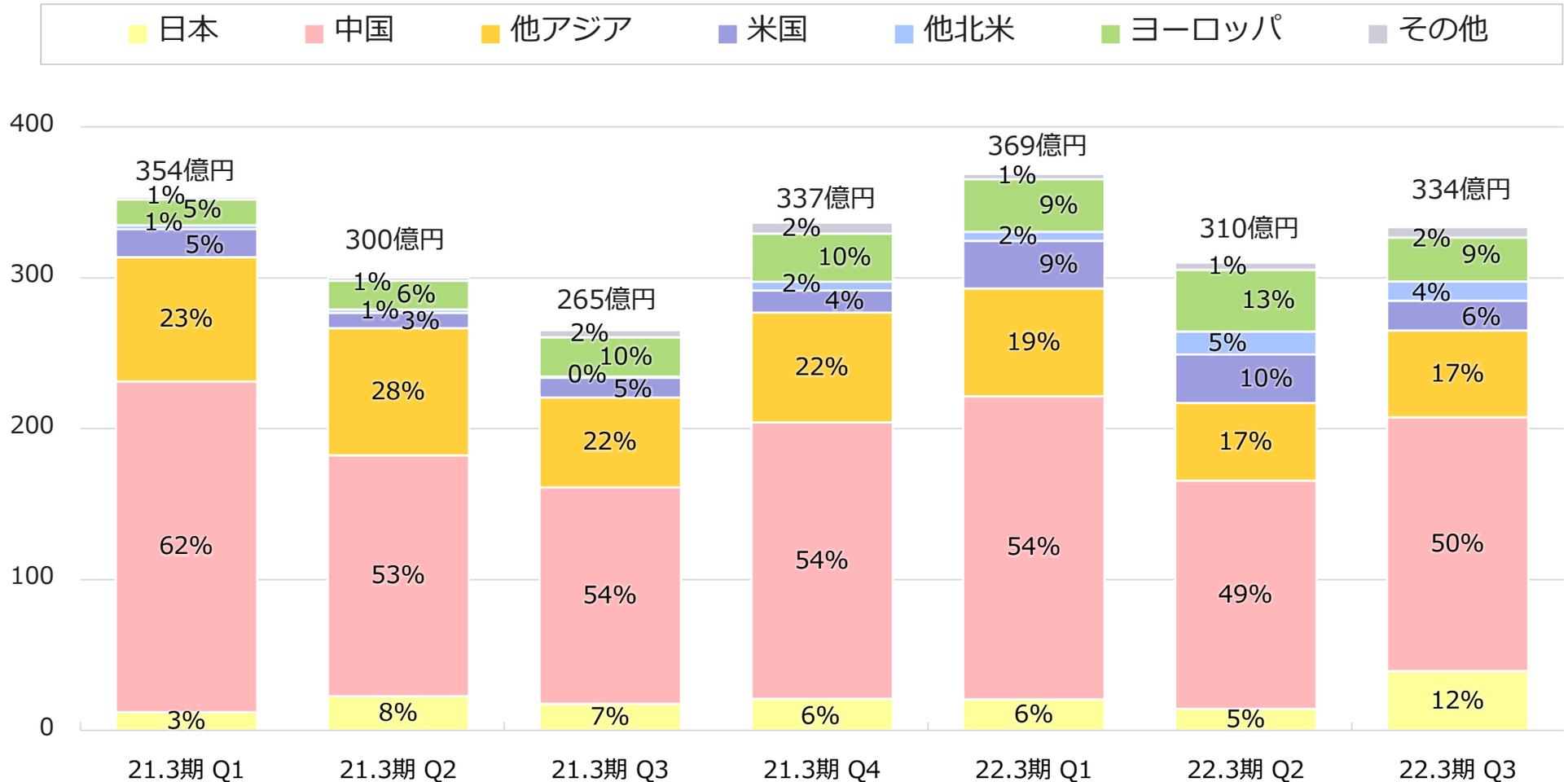
(百万円)

	21.3期 Q3 累計実績	22.3期 Q3 累計実績	対前年同期	
			増減額	増減率
受注高	86,938	106,385	+19,447	+22.4%
売上高	91,918	101,249	+9,330	+10.2%
営業利益	18,399	24,137	+5,738	+31.2%
受注残高	21,524	49,404	+27,879	+129.5%



ロボットソリューション事業 地域別売上高

- ◎日本：半導体関連・産業機器向けの設備需要が大きく伸長
- ◎中国：サーバー・スマホ関連が売上を牽引

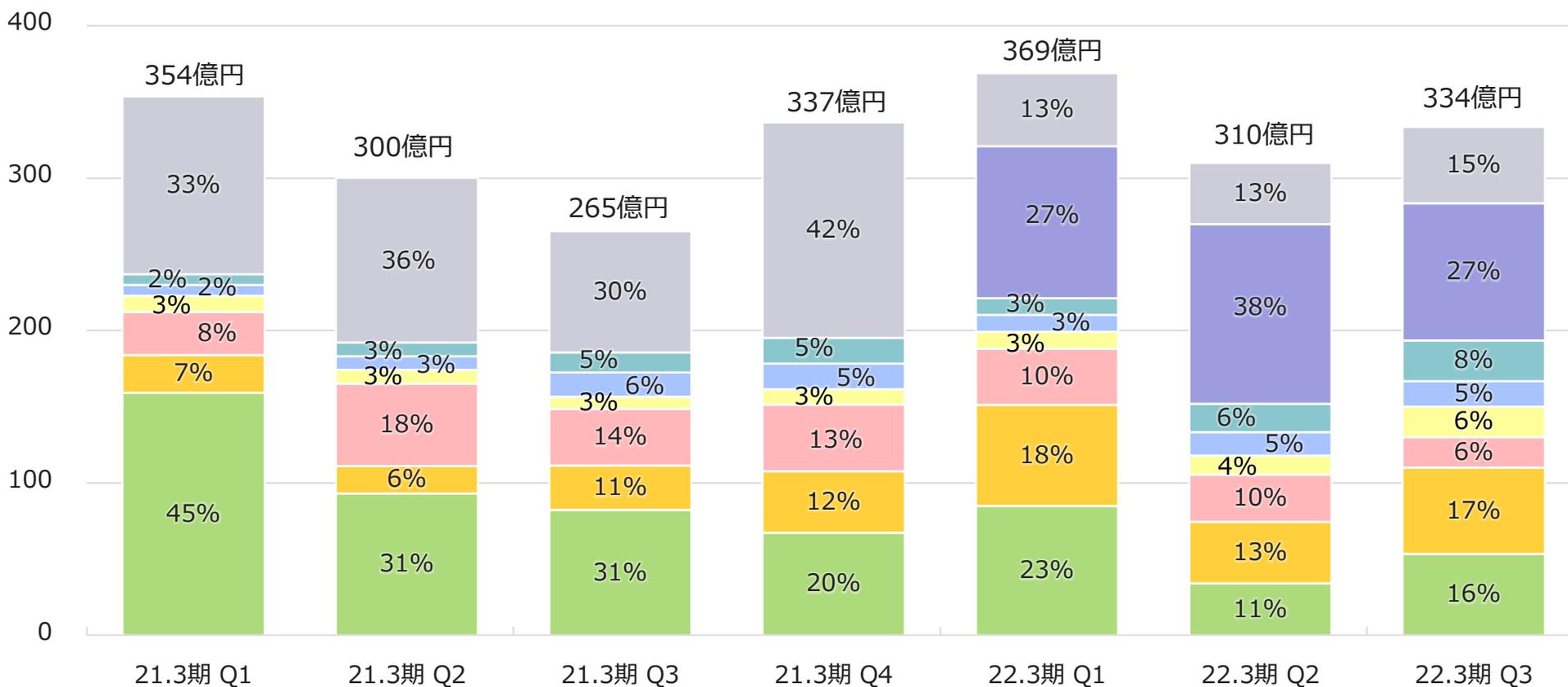


ロボットソリューション事業 業種別売上高

◎通信：中国スマホメーカー向け需要が回復基調

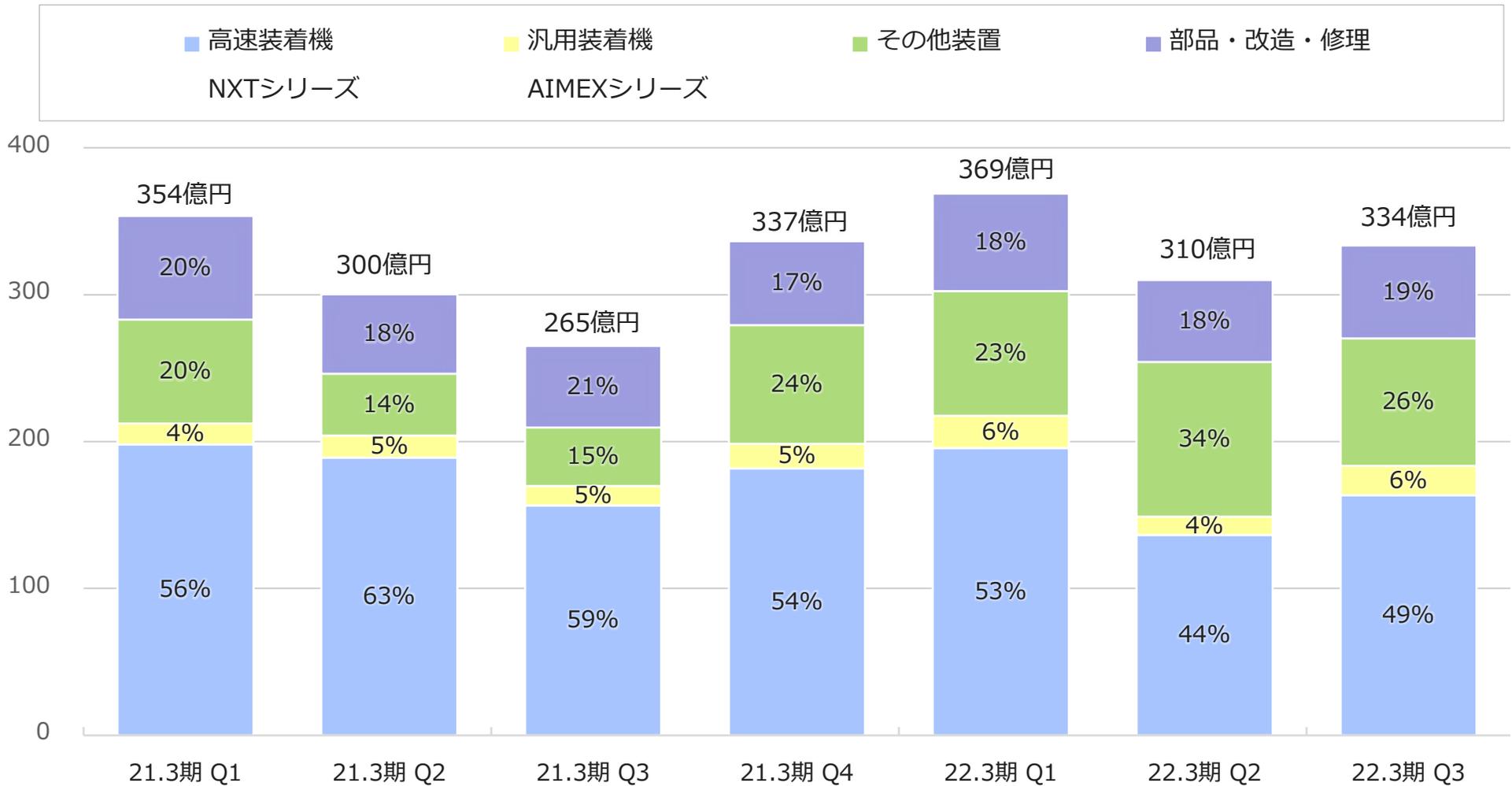
◎半導体関連：ファスフォードテクノロジー社の半導体製造装置は好調を維持

■ 通信 ■ 車載 ■ コンピュータ ■ サーバー ■ 家電 ■ 産業機械 ■ 半導体関連 ■ その他



* 半導体関連：22.3期より「その他」から切り出して別区分として開示

ロボットソリューション事業 機種別売上高



マシンツール事業

複合加工機

GYROFLEX



モジュール型生産設備

DLFn



正面2スピンドル旋盤

CS SERIES



横型NC旋盤

TNII SERIES



対向2スピンドル旋盤

AN SERIES

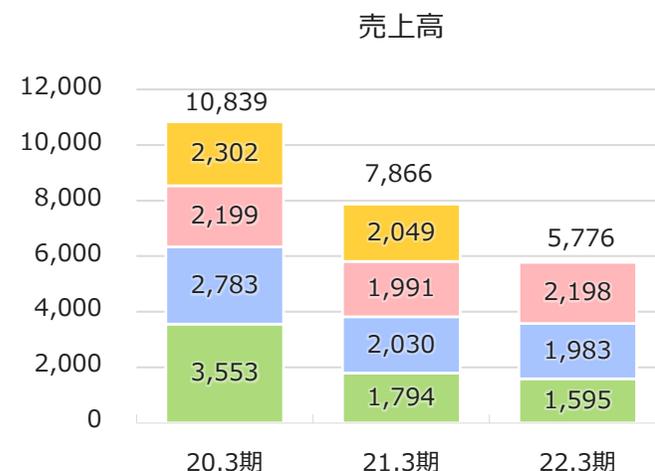
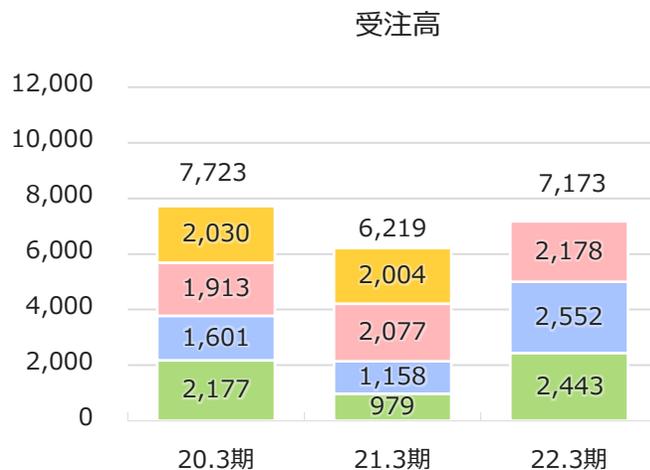


マシンツール事業 業績

◎北米・中国市場を中心に改善の兆しが見え始めるも、国内市場は軟調に推移

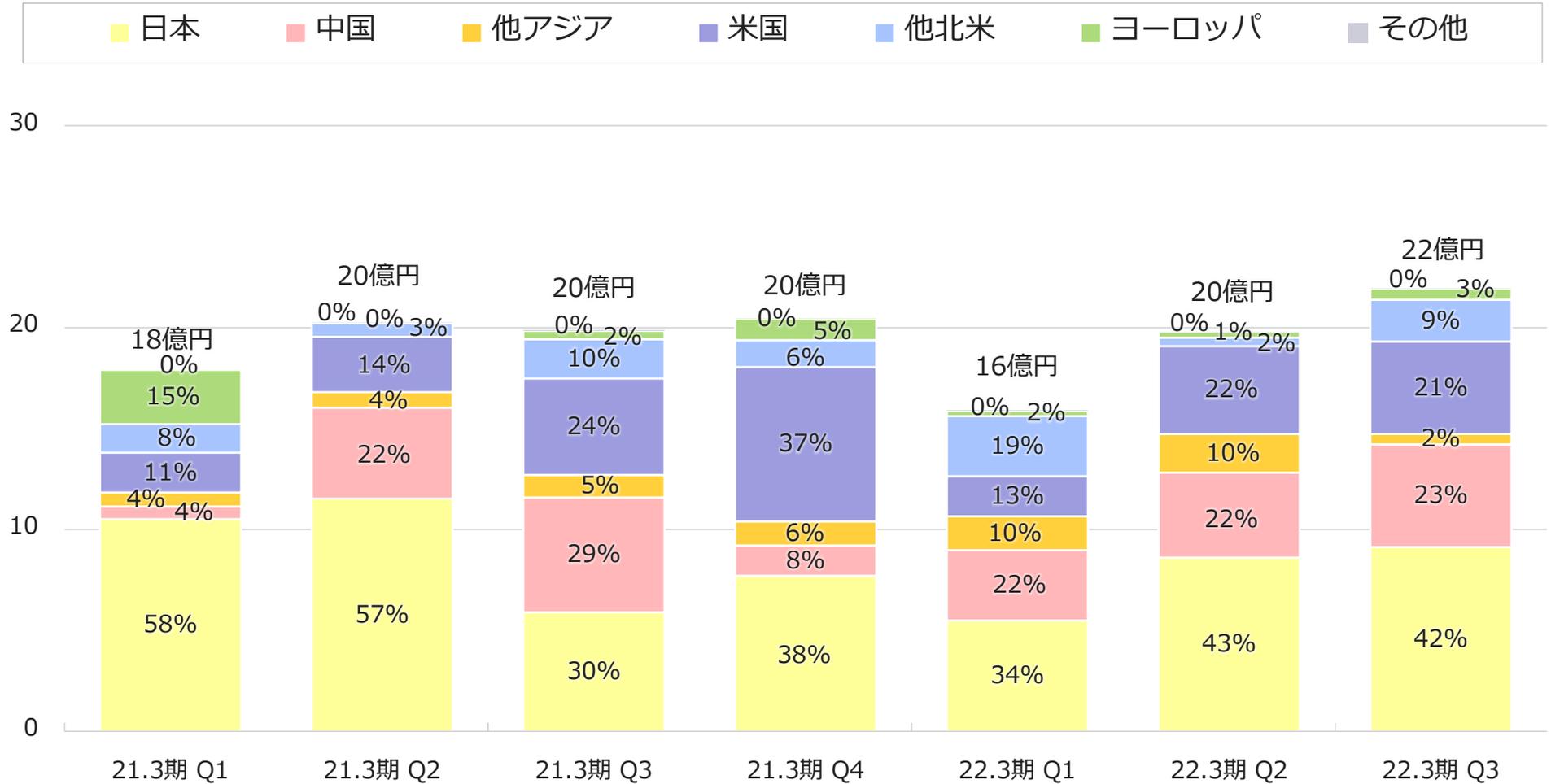
(百万円)

	21.3期 Q3 累計実績	22.3期 Q3 累計実績	対前年同期	
			増減額	増減率
受注高	4,214	7,173	+2,959	+70.2%
売上高	5,816	5,776	▲40	▲0.7%
営業利益	▲907	▲486	+420	-
受注残高	3,730	5,083	+1,352	+36.2%

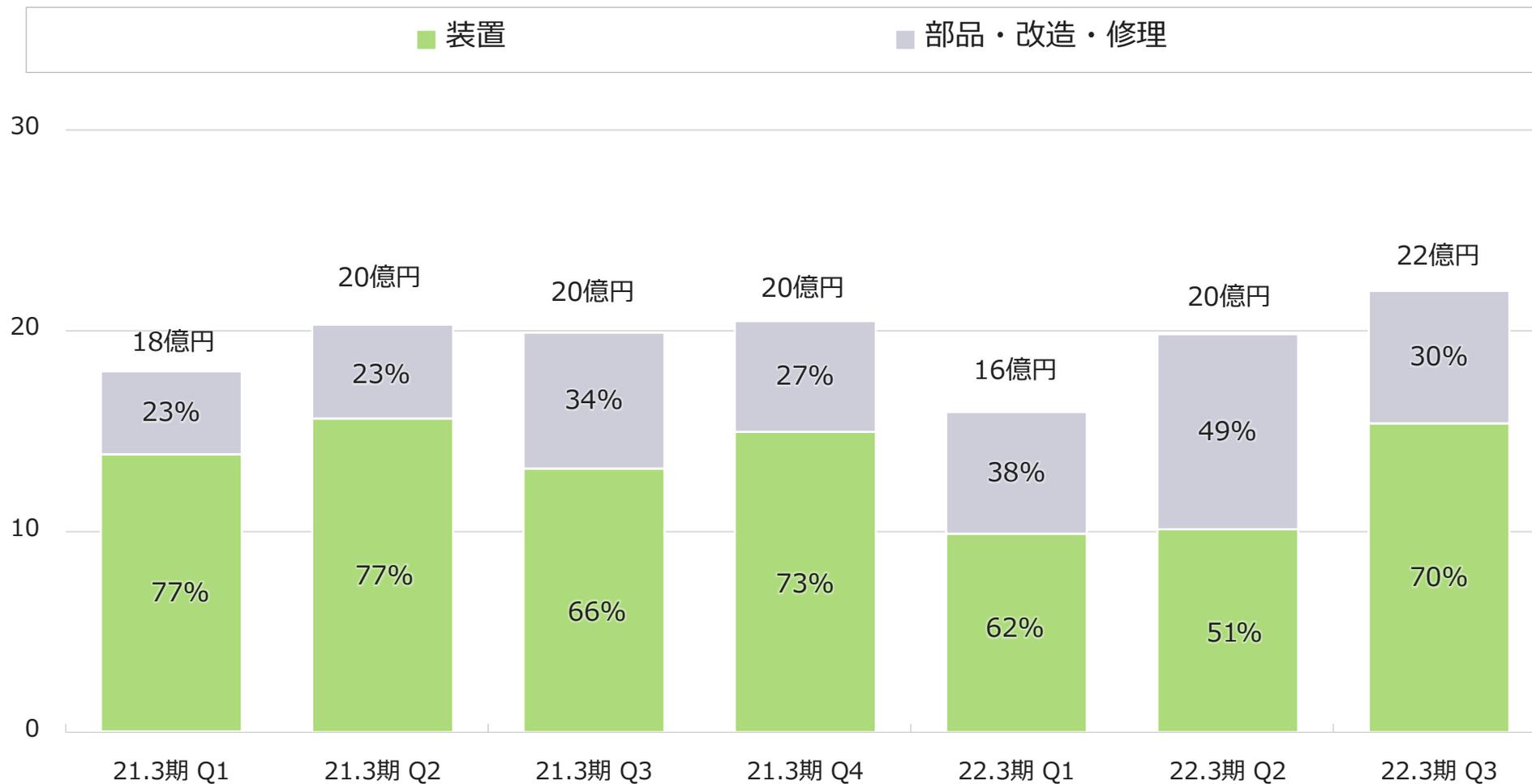


マシンツール事業 地域別売上高

◎国内外ともに、主力顧客である自動車産業において設備需要の回復が鈍い



マシンツール事業 機種別売上高





 2. 2022年3月期 業績予想

業績予想

- ◎受注高については、ロボットソリューション事業において今後も需要の増加が見込めることから上方修正し、一方マシンツール事業は引き続き厳しい受注環境にあることから下方修正
- ◎売上高、各利益については、2021年11月8日公表予想値から変更なし

(百万円)

	21.3期 通期実績	22.3期通期予想				
		2021年11月8日 公表予想	今回予想	対前期実績		対従来予想
				増減額	増減率	増減額
受注高	150,021	153,000	157,000	+6,978	+4.7%	+4,000
売上高	136,161	151,000	151,000	+14,838	+10.9%	±0
営業利益	21,904	30,200	30,200	+8,295	+37.9%	±0
営業利益率	16.1%	20.0%	20.0%	—	—	—
経常利益	23,224	30,800	30,800	+7,575	+32.6%	±0
当期純利益	17,167	22,600	22,600	+5,432	+31.6%	±0

セグメント受注・売上予想

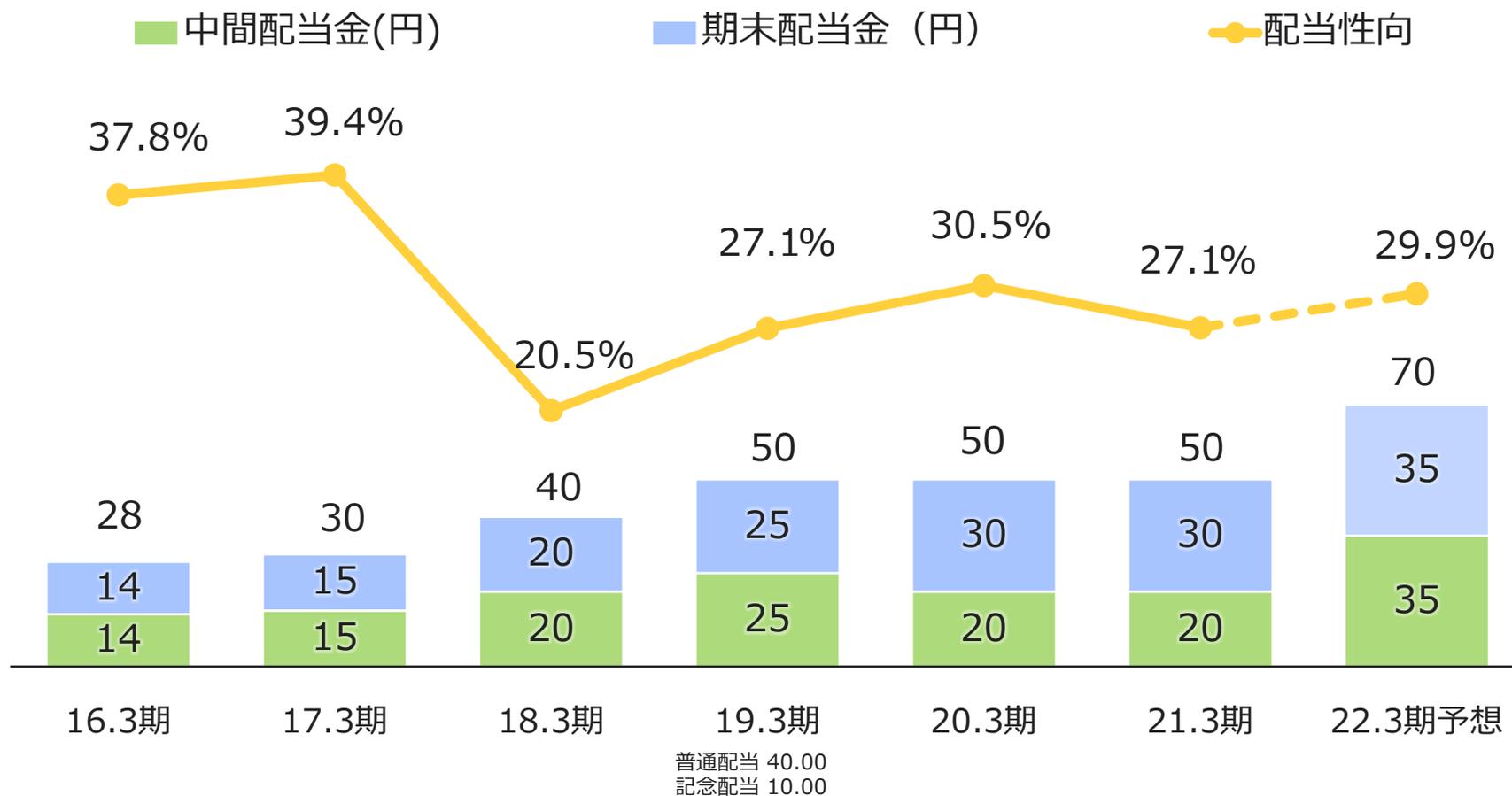
(百万円)

		21.3期 通期実績	22.3期通期予想				
			2021年11月8日 公表予想	今回予想	対前期実績		対従来予想
					増減額	増減率	増減額
ロボット ソリューション 事業	受注高	141,129	139,000	144,000	+2,870	+2.0%	+5,000
	売上高	125,569	139,500	139,500	+13,930	+11.1%	±0
	受注残	44,268	43,768	48,768	+4,500	+10.2%	+5,000
マシンツール 事業	受注高	6,219	11,000	10,000	+3,780	+60.8%	▲1,000
	売上高	7,866	8,500	8,500	+633	+8.1%	±0
	受注残	3,686	6,186	5,186	+1,500	+40.7%	▲1,000
その他 事業	受注高	2,672	3,000	3,000	+327	+12.2%	±0
	売上高	2,725	3,000	3,000	+274	+10.1%	±0
	受注残	260	260	260	±0	-	±0
合計	受注高	150,021	153,000	157,000	+6,978	+4.7%	+4,000
	売上高	136,161	151,000	151,000	+14,838	+10.9%	±0
	受注残	48,214	50,214	54,214	+6,000	+12.4%	+4,000

* ロボットソリューション事業の受注残高につきまして、当第2四半期連結会計期間より連結子会社としたフジ マシン アジア プライベート リミテッドの受注残高を2021年3月期通期実績より遡及修正して含めております。

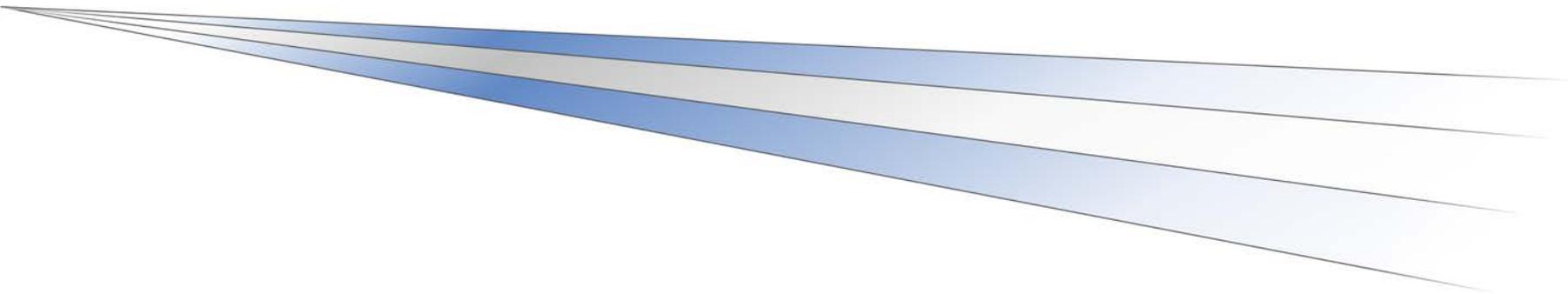
1株当たり年間配当金・配当性向

© 2021年11月8日公表予想値から変更なし





◆ 3. トピックス



リサイクル分別ロボット



がれき類に含まれる異物の自動除去を行う
ロボットを開発

2021年9月より実証実験を開始



AIが異物を認識し、コンベアを停止させる
ことなく異物を除去します

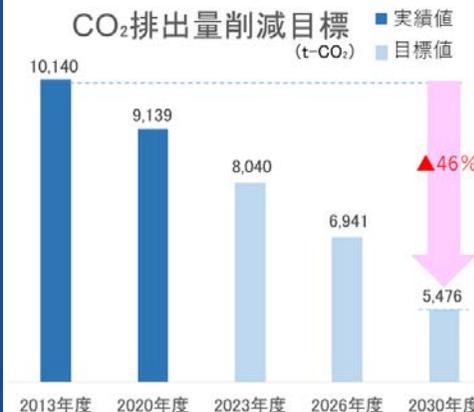
手選別作業をロボットで自動化することによ
って、労働力不足や作業環境の改善に
貢献します

環境中期目標達成に向けて



2030年度までにCO₂排出量削減46%
(2013年度比)を中期目標とし、
社員の省エネ活動はもとより、省エネ
設備の導入、CO₂フリー電気の購入な
どを活用し目標達成を目指しています。

2021年度は本社の使用電気の約20%
(2020年度換算)をCO₂フリー電気
に切り替えました。今後も段階的に
切り替えを進めてまいります。



知立市へマスク6万枚を寄付



新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、
2022年1月19日に本社所在地の愛知県知立市へ
マスク6万枚を寄付いたしました。保育施設や
福祉施設等へ配布され、新型コロナウイルス
感染症拡大防止のために使用されます。

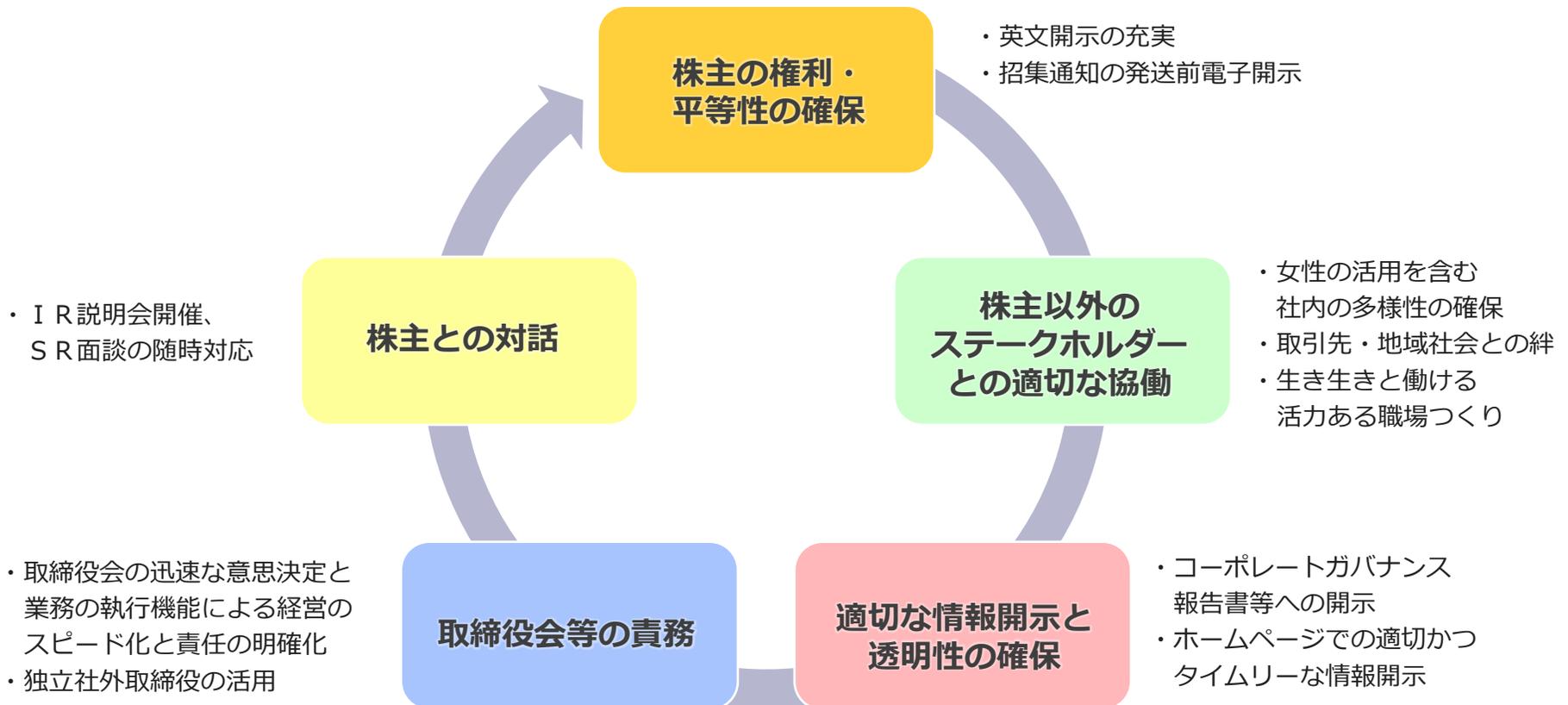
地域との共生も大切な活動と捉え、今後も地域
貢献できるような取り組みを進めてまいります。



知立市マスコット「ちりゅっぴ」と
FUJIマスコット「フジラ」

コーポレートガバナンス・コード

当社はコーポレートガバナンス・コードを踏まえて、
企業価値の向上を目指してまいります。



お客様に感動を!



【本資料お取扱い上のご注意】

本資料を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予測ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる場合があります。

